

Part.1まとめ

Part.1で学んだことの振り返り

- キャリア教育とは何か具体的に理解できた
- キャリア教育にかかわる人材の役割と機能を理解できた
- 学校の組織体制や教員の仕事を理解できた
- 中学生を取り巻く環境や課題を理解できた
- 中学生の進路を理解できた
- 学校と外部専門人材の連携手法を理解できた
- 外部から学校への効果的な働きかけ方を理解できた
- 生徒への効果的な働きかけ方を理解できた

Column 中学生期の特徴を理解しよう

心理学者のホール(Granville Stanley Hall, 1844-1924)は、思春期を「疾風怒濤の時代」とであると指摘しています。キャリア・コンサルタントが中学校教育にかかわる際に、中学生期の特徴を正しく理解することは極めて重要であると言えるでしょう。

例えば、平成20年9月「中学校学習指導要領解説 道徳編」(文部科学省)では、中学生の特徴を次のように述べています。

中学生は、身体的にも大きな変化を経験し、その自己像は大きく揺れ動く。それまで、程度の差はあるものの周囲の期待にそって「良い子」として振る舞ってきた子どもたちも、中学生のころから、様々な葛藤や経験の中で、自分を見つめ、自分の生き方を模索するようになる。感情や衝動の赴くままに行動し、自分の弱さに自己嫌悪を感じることもあるであろうし、逆に、理想や本来の自分の姿を追い求め、大きく前進しようとすることもある。中学生は、そのような大きく、激しい心の揺れを経験しながら、自己を確立していく大切な時期にある。一人一人の生徒の姿を、表面的な言動だけで決め付けることなく、自己確立へ向けての模索の姿として、広い視野で見守ることが大切である。(p.18-19)

また、平成20年9月「中学校学習指導要領解説 特別活動編」(文部科学省)における次の指摘も注目します。

中学生の時期は、親への依存から離れ、自らの行動は自ら選択決定したいという独立や自律の要求を高めていく。同時に、自分の将来における生き方や進路を模索し始める。また、様々な人々の生き方にも触れて、人間がいかにかに在るべきか、いかに生きるべきかについても、考え始めるようになる。しかし、一般的に、生徒には経験や情報が不足していたり、また自分の将来を考えるための思考力の発達などもまだ十分でないため、適切に対処することが困難であることが少なくない。(p.11)

中学生は、成長に伴うこのような変化に自ら戸惑いながら、高等学校入学者選抜をはじめとする現実的な進路の選択を迫られるという大きな課題にも直面しています。中学校の教師は、日々、このような中学生一人一人のキャリア発達をきめ細やかに支援していることを念頭に置いて、中学校教育にかかわっていききたいものです。

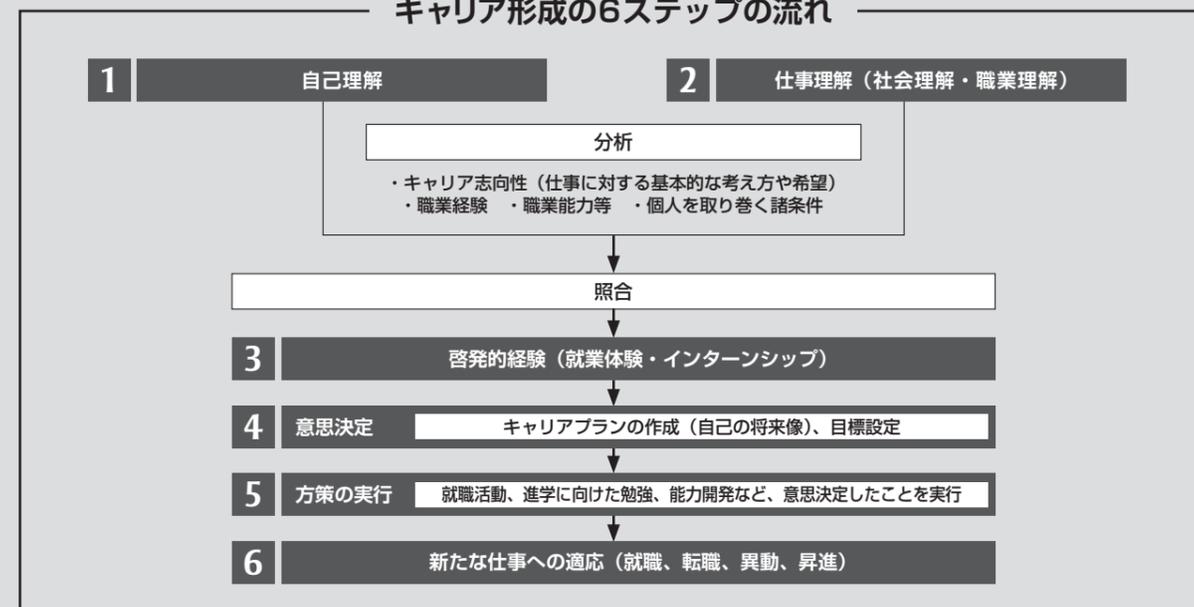
文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官 藤田晃之

Part.2

教員とキャリア・コンサルタントのためのキャリア教育実践講習

Part2では、教員とキャリア・コンサルタントが連携、協力しながらキャリア教育について学んでいきます。まずは外部専門人材とはどのような人たちのことを言い、どのような役割を担う人材なのかを理解していきます。そして、厚生労働省のキャリア形成の流れに沿って、中学校におけるキャリア教育の実践的な授業スキルを共に学んでいきます。

キャリア形成の6ステップの流れ



05 外部専門人材の活用

中学校を支援する外部専門人材の役割と機能

外部専門人材の悩み(例)

- ・学校教育制度や中学生を取りまく環境への理解が不足している
- ・中学生の発達課題への対応方法が分からない
- ・学校や生徒のキャリア教育に関する具体的なニーズが分からない
- ・企画力やコーディネート力、連携力に不足を感じる

連携の重要性

平成23年1月中央教育審議会の「今後のキャリア教育・職業教育の在り方について一答申」では、「キャリア教育、職業教育を展開するにあたり、教員が多くの仕事について実感を持って指導することは困難な場合が多い」とされており、「キャリア教育を十分に展開するためには、学校が家庭、地域・社会、企業、経済団体・職能団体や労働組合等の関係機関、NPO等と連携することが不可欠である」と言及しています。

外部専門人材の活用内容例

- ・授業中のゲストティーチャー、出前授業
- ・部活動の指導・補助
- ・授業中の補助
- ・特別な支援が必要な生徒の補助
- ・放課後の補習の指導・補助
- ・土曜日の学習指導・補助
- ・長期休業中の学習指導・補助

【出典】平成23年3月「第5回学習指導基本調査(小学校・中学校版)」(Benesse教育研究開発センター)

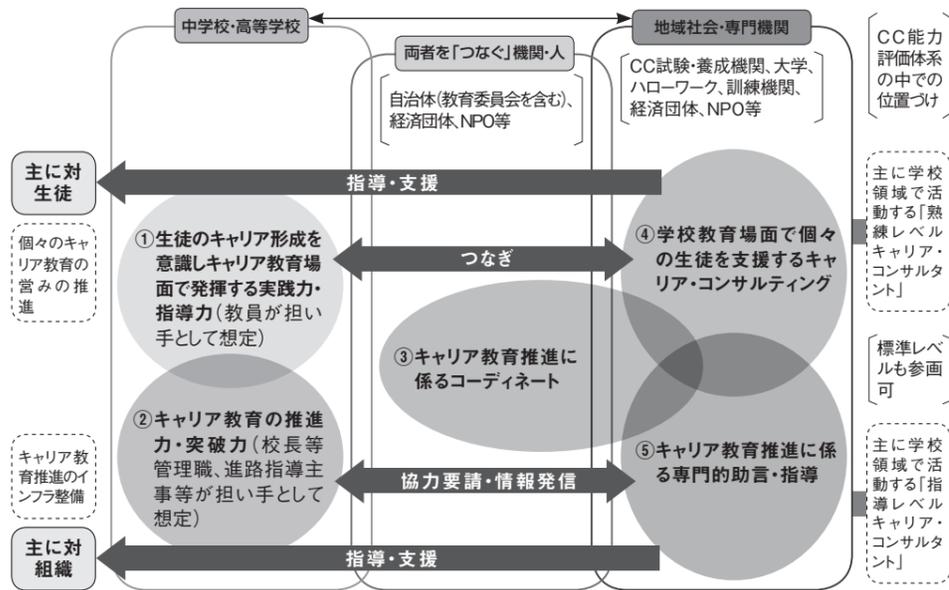
A キャリア教育に関わる人材の役割と機能

キャリア教育を効果的に展開するためには、学校が家庭や地域・社会、企業、NPO等と連携し、お互いの能力をうまく活用しながら一体となった取り組みを進めることが重要となってきています。キャリア・コンサルタント等の外部専門人材の活用を視野に入れて中学校のキャリア教育の推進に関わる人材の役割・機能を整理すると、その立場により概ね以下の5つに区分することができます。

【中学校のキャリア教育推進に関わる人材の役割・イメージ】

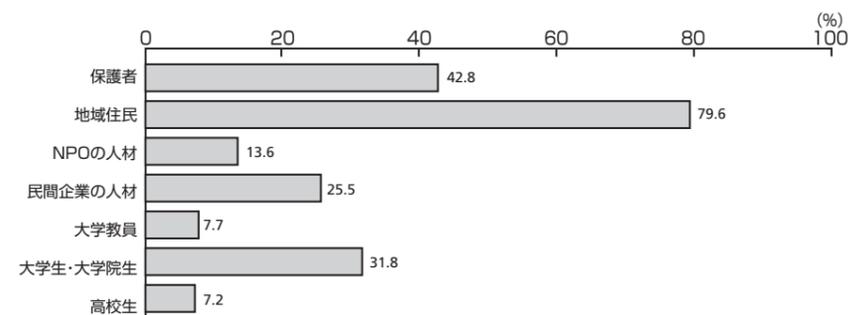
【キャリア・コンサルティングの関わりを中心として】

☆これらの役割を担い、能力を備えた人材が適切な分担を図りつつ(時に1人の人材が複数の役割を兼ね)総体としてキャリア教育推進に当たることが期待されています。



【出典】平成22年3月「キャリア・コンサルティング研究会報告書」(厚生労働省)

<参考データ> 中学校の外部人材活用状況



注1)複数回答可
注2)「活用している」と回答された比率
注3)サンプル数は573人

【出典】平成23年3月「第5回学習指導基本調査(小学校・中学校版)」(Benesse教育研究開発センター)

B キャリア・コンサルタントとは

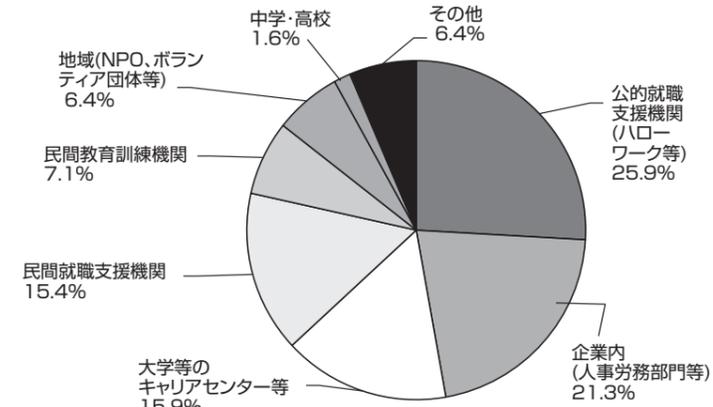
中学校でのキャリア・コンサルタントの役割は、職業情報、キャリアに関する情報を提供することや、教員が行うキャリア相談に関するコンサルティングが主です。教員の方々は、キャリア・コンサルタントが支援できる内容を把握し、積極的に活用できる場を検討していきましょう。

キャリア・コンサルタント

「キャリア・コンサルティングを担う人材」であり、キャリア・コンサルティング技能士(1級・2級)、標準レベルキャリア・コンサルタント、登録キャリア・コンサルタントから構成される。

【出典】厚生労働省

【キャリア・コンサルタントの活動の場】



【出典】「平成22年度キャリア・コンサルティングに関する実態調査」(厚生労働省)

【キャリア・コンサルタントの中学校・高等学校における支援例】

- ① 職業情報、職業適性検査等を用いた指導、助言
- ② 教員が行うキャリア相談に対する支援
- ③ キャリア教育に関わる講師、ワークショップ等の補助者役
- ④ 職場体験機会を有効活用した啓発活動 等

キャリア・コンサルタントの強み

- ・進路や職業について個人の相談支援を行う専門家!
- ・労働市場や企業情報、職務、雇用など職業情報に精通している!
- ・キャリア支援に関わるツールや技法も熟知している!

キャリア・コンサルティング

「個人が、その適性や職業経験等に応じて自ら職業生活設計を行い、これに即した職業選択や職業訓練等の職業能力開発を効果的に行うことができるよう個別の希望に応じて実施される相談やその他の支援」をいいます。

【出典】平成19年11月「キャリア・コンサルタント制度のあり方に関する検討会報告書」(厚生労働省)

<具体的内容>

- 1.相談者自身の今までの職業経験(学生生活)の振り返りや、適性検査等を通じた自己理解の促進。
- 2.労働市場や企業情報(会社概要や職務内容・雇用条件などの求人情報、キャリア支援制度などを含む)に関する情報提供等を通じた、仕事理解の促進。
- 3.職業体験を通じた仕事に対する動機付けをおこなった上で、職業生活、職業能力に関する目標設定をおこない、職業、職務選択や能力開発のための主体的活動に繋げていくための相談など。
- 4.上記1~3の活動を個人へ施すと同時に、組織・集団への働きかけを行う。

【出典】平成14年7月「キャリア形成を支援する労働市場政策研究会報告書」(厚生労働省)

キャリア・コンサルティング技能検定(キャリア・コンサルティング技能士1級・2級)

国の技能検定職種のひとつであり、試験は学科試験と実技試験から構成されています。両試験に合格すると試験等級に応じて「キャリア・コンサルティング技能士」の称号が付与されます。キャリア・コンサルティング技能士2級を受験するには原則として5年以上の実務経験など、一定の要件が必要です。

標準レベルキャリア・コンサルタント

「キャリア・コンサルタント養成講座(140時間)を受講し、キャリア・コンサルタント能力評価試験に合格した者等」をいいます。

06 自己理解

中学生のキャリア教育における自己理解の意義と目的、その具体的方法

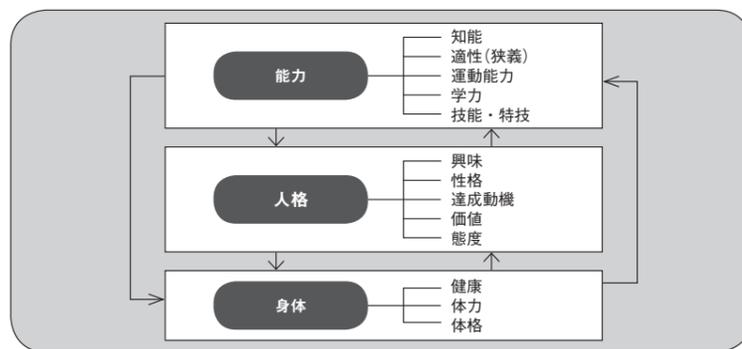
A 自己理解の意義と目的

キャリア教育を進める上で、生徒自身が自己理解を行うことは欠かせないテーマのひとつです。しかし、中学生が自分自身を振り返り、主観的または客観的に自己理解を進めるのは難しいため、職場体験などの様々な活動を通じ自分が感じたことを自己理解につなげることが重要になります。そのため、教員や外部専門人材が活動支援を行いながら、様々な体験活動や他者からの気づきを伝えることで自己理解を深めていくことができます。

- 自己理解とは** 職場体験や授業などの様々な活動を通じ、自分自身を分析することで、様々な面から自己を確認し客観視できるようになること
- 意義と目的**
 - 自分について客観的に理解できるようになる
 - 体験や活動を通じ自分の得意・不得意などを見つけ、自分の言葉で表現できるようになる
 - 自分の進路を広い視野を持って設計できるようにする
- 留意点**
 - 自己理解を行う際は自己肯定感を損なわないようにすること（中学生は短所を自己特性として捉えてしまうことが多い）
 - 生徒の良さに気づき可能性を広げることが重要
 - 自分の思いをうまく言語化できず表面的なものになりやすいため、言語的に補助してあげることが必要
 - 自己理解は他者や環境との相互作用によって絶えず変化していくもの、変化できるものと捉えること

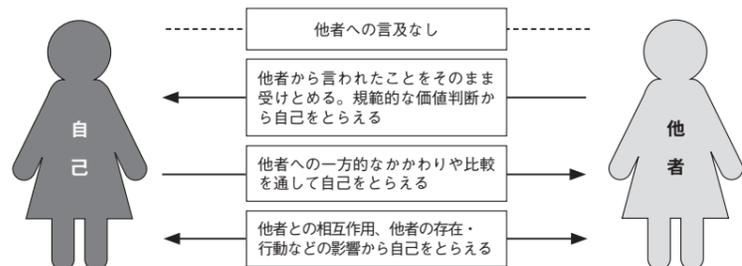
<参考データ> 自己理解の切り口

キャリア適合性



【出典】平成22年4月「図説キャリア教育」(雇用問題研究会)

対人性タイプ



【出典】平成21年6月「東北大学大学院教育学研究科研究年報第57集第2号」『思春期・青年期における自己理解』(滝吉美和香・田中真理)

ジョハリ窓

自分だけが知っている「秘密の窓」と他人だけが知っている「盲点の窓」を相互のコミュニケーションによって広げることで「未知の窓」が狭まり、自己理解が深まります。



ワーク

自己理解の方法について主観的に自分を知る方法、客観的に自分を知る方法、ツールを使って自分を知る方法を、それぞれ考えてみましょう

主観的方法	
客観的方法	
ツール	

B 自己理解の方法①(主観的方法)

自分の自己PRを作成することで、自己理解を促そうとするものです。主観に偏る傾向もありますが、自分を知る第一歩としては有効なツールです。

B 自己理解の方法②(客観的方法)

他人からの客観的な評価が加われば、自己理解の客観性が増してきます。友だちからの指摘、アドバイスを受け止めて、より客観的な自己理解を促してください。

ワークシート

- ・ P.42 「強み&弱みシート」
- ・ P.42 「好きなものマップ」

ワークシート

- ・ P.43 「メッセージカード」
- ・ P.43 「インタビューシート」

アセスメントツール活用の留意点

例えば、右のテーマ別アセスメントツールは、職業適性を構成する「適性・興味・性格」という要素を知るためのツールの例であり、職業適性はこれらのいずれかひとつの結果だけで決定されるわけではありません。無目的にアセスメントツールを選んだり、ひとつのアセスメントツールだけに依存するのではなく、目的に応じて必要なツールを使うよう心がけてください。

B 自己理解の方法③(アセスメントツールの活用)

自己理解を深めるためには、自分自身を振り返ったり身近な人から意見を聞いたりするだけでなく、客観的な評価のフィードバックを受けることも大切です。その役に立つのが、さまざまなアセスメントツールです。

【キャリア教育関連のアセスメントツール(テーマ別)の例】

テーマ	アセスメントツール名	特徴
適性	厚生労働省編 一般職業適性検査(GATB)	15種の下位検査(紙筆検査11種、器具検査4種)から9種の適性を測定し、適性職業群を示す検査 対象:中学生~成人(45歳程度)
興味	職業レディネス・テスト[第3版] (VRT)	6つの職業志向性と、3つの基礎的志向性から職業興味や自信度などの特徴を得る検査 対象:中学2年生~高校3年生
性格	YG性格検査	120の質問からなる質問紙法の性格検査で、情緒、人間関係、行動、知覚の特性を判断する検査 対象:小学生~成人

<参考データ>

職業レディネス・テストとは

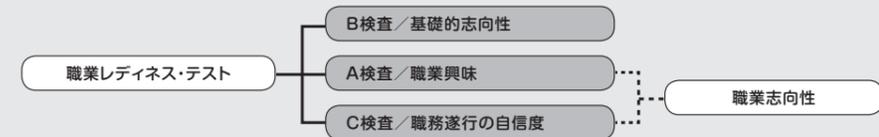
職業レディネス・テスト[第3版](労働政策研究・研修機構 編)は、中学生や高校生が自己の進路を探索し、将来の職業や生き方を考えることを援助するために開発された検査です。検査を通じて生徒の職業に対する準備度(レディネス)を把握し、生徒が職業に関する自分のイメージをチェックしたり、進路選択への動機付けを促すことができます。

- 対象:原則として中学校及び高等学校の在学学生
※職業経験や知識が少ない場合、短大・大学・高専・専門学校・職業訓練校・職業相談機関等でも実施可能です。

- 実施方法:個別実施でも集団実施でも可能
- 所要時間:実施に要する時間は、40~45分程度
- 採点方法:自己採点もしくはコンピュータ採点(有料)

- ※どちらの場合も結果を整理するために「結果の見方・生かし方」が必要

- テストの特徴
 - ・最新のデータ(産業心理学の成果等)をもとに標準化を行っており、妥当性と信頼性が備わった検査です。
 - ・「**職業興味**」を測定するA検査と「**基礎的志向性**」を測定するB検査、「**職務遂行の自信度**」を測定するC検査から構成されています。



A検査:職業興味を6つの職業領域(現実的(R)、研究的(I)、芸術的(A)、社会的(S)、企業的(E)、慣習的(C))について測定し、プロフィールで表示

B検査:職業への興味関心の基礎となる志向性を測定、3つの方向性(対情報、対人、対物)によるプロフィールで表示

C検査:職務遂行の自信度を6つの職業領域について測定、プロフィールで表示



【職業レディネス・テストの活用例】

- ・**自分の適性理解**
職業レディネス・テストを実施した後、自身の職業適性や特色を知る他、グループ内で互いに結果を知らせ合い自己理解を深める
- ・**2年生職場体験前**
事前に実施することで職業理解と職場体験への意欲の醸成のきっかけとし、事後に実施することで、事前との変化を見て自己理解を深める
- ・**3年生進路指導と職業理解**
進路を考える上で自分の特性を知ると同時にさまざまな職業について考え視野を広げる

ワーク VRTカードを体験してみましょう

VRTカードとは

VRTカード(労働政策研究・研修機構 編)は、心理検査「職業レディネス・テスト」の職業興味と職務遂行の自信度に関する項目を1枚ずつのカードに印刷した、親しみやすく、扱いやすいキャリアガイダンスツールです。54枚のカードに書かれている仕事内容への興味や、その仕事を行うことについての自信を判断していくことで、興味の方向や自信の程度が簡単に分かります。

- 特徴:職業興味、職務遂行の自信を簡単に測定できる
 - ・使い方を自由にアレンジできる
 - ・テストとしての圧迫感を与えず、楽しく実施できる
 - ・心理検査「職業レディネス・テスト」の信頼性を保持している

- 実施の流れ
VRTカードは色々な使い方ができますが、実施者と受検者が1対1で行う実施方法が基本的な使い方です。



Column 自己理解

中学時代の発達段階は青年期前期に当たる。第二次性徴期で、身体的、生理的にも大人への移行期だ。知識習得への意欲も著しく高い反面、社会的参画に耐えられる精神面はひ弱で不安定なアンバランス状況にある。この発達段階で将来のキャリアデザインをきっちりと描かせることはまだ難しい。むしろ、今まで、自分が生きてきた過去の道筋を振り返り、しっかりと整理させ、自己理解を深める教育が大切だ。現在の自分の立ち位置の中で、過去の自分を形成したキャリアを見つめさせる。幼い年代から、現在の自分までの出来事を振り返り、自分が強く感動したこと、最も感激したこと、深く感謝したことなどを数多く思い出させて描かせる。それらの出来事を興味領域、能力領域、そして価値観領域に整理させることが大切である。覚えていない過去の振り返りは家族や身近な人や幼友達からの情報提供で整理する。これらの整理後に職業レディネス・テストと向き合わせる。未来の夢や希望に向けたキャリアデザインを描く教育を行うに際しては、生徒のコースを狭めたり、固めたりしてしまうことにならないように細心の教育の配慮が必要だ。中学段階では夢や希望は広げるのは良いが、絞り込みや選択の意思決定はできるだけ注意した方がよい。全国の中学校では97%がキャリア教育に職場体験活動が実施されている。内容の充実にはまだ啓発的課題が多い。この体験活動を中学キャリア教育の軸にすえて、ビジネスマナー的な体験活動だけでなく、体験先と十分に調整されたビジネス目標を立て自立的な問題解決学習へ昇華することを推奨する。真剣な働きを通じて、汗と涙と喜びを感じる職場体験が、自分が持つ内発的なキャリア能力と新しい場面葛藤でシナジー(相乗)効果を生み出し、未来の巣立ちに向けたキャリア啓発のカタリスト(触媒)効果を生み出す。この自立力を根幹とする実践的なキャリア教育を行わないと、中学段階における内発的な自己理解は醸成しない。

次世代キャリア啓発塾 代表 竹原信次

職業レディネス・テストの活用方法

- ・興味と自信との関係、また日常の興味・関心を客観的に図式化し、総合的に解釈することで、進路を探索する方向性をとらえることができます。
- ・職業情報と組み合わせた活用が可能です。
- ・問題用紙、回答用紙(中学生用・高校生以上用)、結果の見方・生かし方、手引が必要です。
- ・結果の見方・生かし方(ワークシート)で結果を振り返り、仕事や職業について確かな知識や情報を得ることが出来ます。

検査結果を解釈するときのポイント

- ・検査結果は絶対視せず、教員の解釈や生徒のほかの個人情報と併せて総合的に判断しましょう。
- ・検査結果に表れた欠点ばかりを指摘したり、判定スケールの低い項目ばかりを問題視したりしないようにしましょう。
- ・検査結果を都合よく改変したり、無視したりしないようにしましょう。
- ・検査結果は実施状況によって変動するため、固定的に捉えないようにしましょう。
- ・検査結果の解釈には他の教員の意見も求めて検討するようにしましょう。

VRTカードのイメージ



07 社会理解・職業理解

中学生のキャリア教育における社会理解・職業理解の意義と目的、その具体的方法

A 社会理解・職業理解の意義と目的

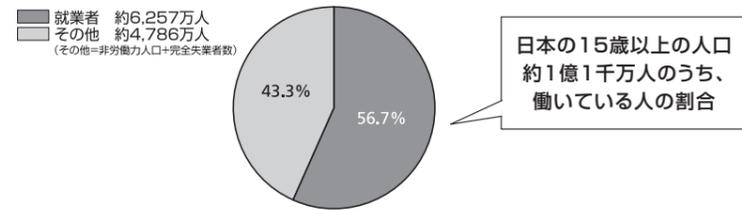
社会理解・職業理解は、進学、就職いずれの進路を選択する場合でも、すべての生徒にとって重要な学習事項です。社会・職業理解をしながら、生徒が自分自身と結び付けて考えることで「自己理解」もより深いものになっていきます。

社会理解・職業理解とは	社会や職業について(主に職業、産業、企業、雇用、経済、社会状況等)広く深く正しい情報を知ること
意義と目的	<ul style="list-style-type: none"> ○世の中にはどのような産業や職業があるのかを知り、自らの志向や適性について考える ○社会や産業、職業に対する興味関心を持たせ、視野を広げる ○自己理解と相互作用によってより良い進路職業選択を行う ○勤労観や職業観を育成し、学習意欲の向上や学習習慣の確立を行う
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○正確な情報であることが重要 (有り余る多量な情報の中から不確かな情報は省くことも大切) ○与えられるだけでなく、自ら選択・判断して身につけていく必要がある ○「探索⇒収集⇒整理⇒活用」のプロセスにおいて適宜助言していくこと ○生徒が理解可能な量の情報であること(適正な時期に適正な情報を)

B 指導の参考となる知識①社会・雇用情勢

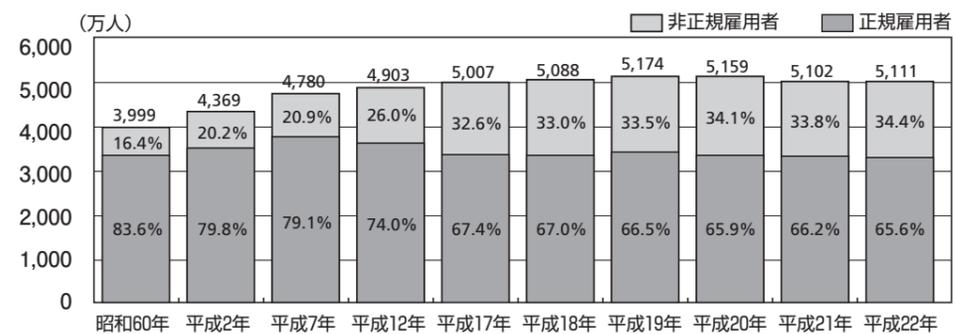
世界経済の低迷、デフレ、構造不況、国内生産拠点の海外移転など、日本経済の景気、雇用は非常に厳しい状況にあります。また、雇用情勢は地域差があるため、身近な地域の特性をよく理解しておくことも大切です。一般的な雇用情勢のトレンド、地域の実情、双方のデータを確認しておきましょう。

【日本の就業者人口】



【参考】「平成22年度労働力調査(基本集計)」(総務省)をもとに作成

【正規雇用者と非正規雇用者の推移】

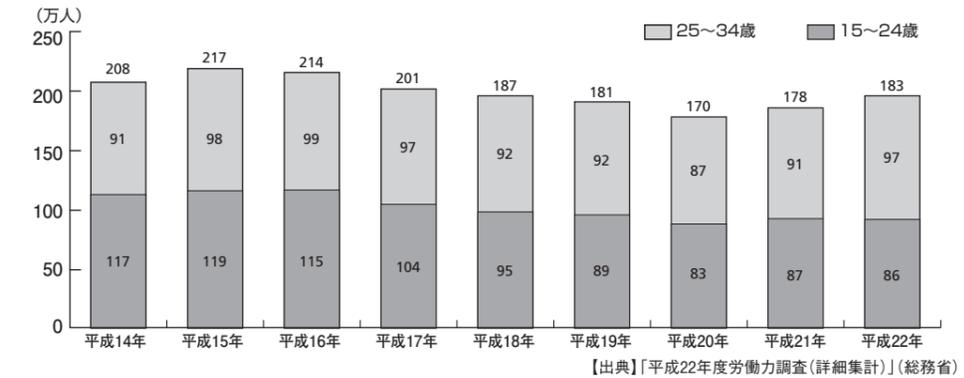


【参考】「平成22年度労働力調査(詳細集計)」(総務省)をもとに作成

正規雇用者
一般職員又は正社員などと呼ばれる者

非正規雇用者
正規雇用者以外のパート、アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託職員など

【フリーターの数の推移】



【出典】「平成22年度労働力調査(詳細集計)」(総務省)

フリーター

「若年層のパート・アルバイト及びその希望者」は年齢が15歳から34歳までで、男性は卒業者、女性は卒業で未婚の者のうち以下の者を言います。

- ①雇用者のうち「パート・アルバイト」の者
- ②完全失業者のうち探している仕事の形態が「パート・アルバイト」の者
- ③非労働力人口で、家事も通学もしていない「その他」の者のうち、就業内定しておらず、希望する仕事の形態が「パート・アルバイト」の者

参考知識

- ・P.53 さまざまな働き方
- ・P.54・55 労働法～働くときに必要な基礎知識～

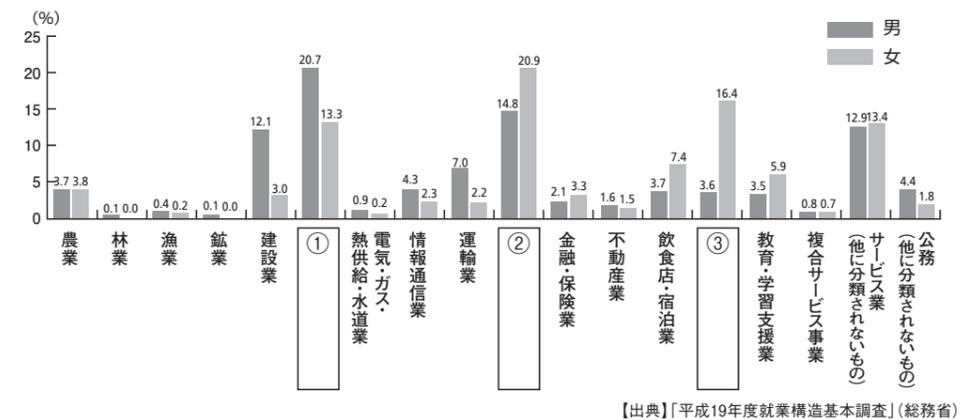
B 指導の参考となる知識②産業構造

産業構造にも変化が現れています。生産拠点の海外移転による国内製造業の空洞化、高齢化における介護・福祉施設の職員不足など、産業構造の転換等に伴い、そこで働く人口も変化しています。生徒への指導の参考として基本的な知識は身に付けておきましょう。

ワーク 産業別に働いている人の割合トップ3を考えてみましょう

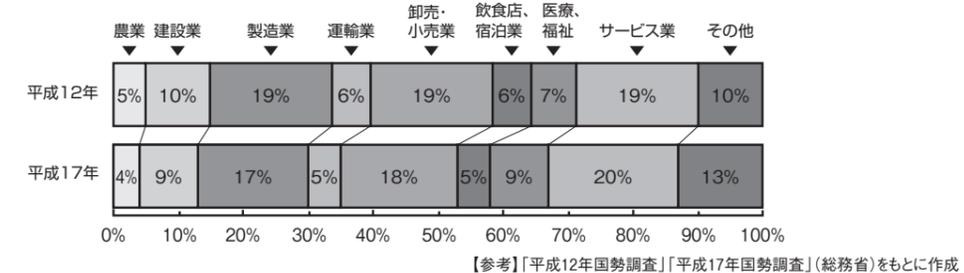
<参考資料> 日本標準産業分類

【産業別に見る働いている人の割合】



【出典】「平成19年度就業構造基本調査」(総務省)

【産業別就業者人口変化】



【参考】「平成12年国勢調査」「平成17年国勢調査」(総務省)をもとに作成

産業別に見る働いている人の割合解答

- ① 製造業
- ② 卸売・小売業
- ③ 医療・福祉

B 指導の参考となる知識③職業

就業経験のない中学生に職業、仕事を伝えていくことは非常に難しいことです。まずは職業や働くことに興味を持たせる働きかけをしていくことが重要です。

ワーク 日本には現在どれくらいの職業があるでしょうか

<参考データ>

【職業別有業者数】

職業大分類	実数(千人)	職業の例
専門的・技術的職業従事者	9,647	科学研究者、技術者、医師、看護師、社会福祉専門職業従事者、法務従事者、教員、宗教家、デザイナーなど
管理的職業従事者	1,797	管理的公務員、会社・団体等役員など
事務従事者	13,330	一般事務、外勤事務、運輸・通信事務、事務用機器操作員など
販売従事者	8,887	商品販売、販売類似職業など
サービス職業従事者	6,702	家庭生活支援サービス、生活衛生サービス、飲食物調理、接客・給仕、居住施設・ビル等管理人など
保安職業従事者	1,093	自衛官、警察官、消防員、警備員など
農林漁業従事者	2,710	農耕従事者、林業従事者、漁業従事者など
運輸・通信従事者	2,116	鉄道運転士、自動車運転者、船舶・航空機運転、通信従事者など
生産工程・労務従事者	17,734	金属材料製造従事者、電気機械器具組立従事者、食料品製造従事者、衣服・繊維製造従事者、印刷・製本従事者など

【出典】平成19年10月「就業構造基本調査」(総務省)

C 社会理解・職業理解の方法

社会理解・職業理解に必要なのは知識だけではありません。特に、職業理解という点では、職業の現実、やりがい、厳しさなどを「体験」を通して、学ぶことも重要です。職業理解を促すための方法を考えてみましょう。

ワーク 社会理解・職業理解を図るにはどうしたらよいでしょうか

<参考データ>

【給与データ等】

新卒初任給

大学卒	202,000円
高専・短大卒	172,500円
高校卒	156,500円

【出典】平成23年11月「賃金構造基本統計調査」(厚生労働省)

生涯賃金

大学 大学院 卒	男性	2億6,660万円
	女性	2億180万円
高校 卒	男性	2億390万円
	女性	1億2,810万円

【出典】平成23年3月「ユースフル労働統計-労働統計加工指標集-」(労働政策研究・研修機構)

【中学校3年間の学校教育費】

私立中学校の学校教育費は公立中学校の約7倍。

学校教育費

公立中学校	41万円
私立中学校	284万円

【参考】「平成20年度子どもの学習費調査」(文部科学省)をもとに作成

<参考資料> OHBYカード

【「OHBY(オービィ)カード」とは】

「OHBYカード」は、職業カードソート技法^{*1}を行うために開発されたカード式職業情報ツールです。430職種の職業情報を、写真・イラスト・チャート・動画などで紹介する「職業ハンドブックOHBY」の内容を48枚の必要最小限のカードにまとめました。このカードを使って作業を行う中で、自分の興味や関心を知り、同時に、知っておくべき必要最小限の職業情報も得ることができます。

(*1)職業カードソート技法とは、アメリカを中心に海外では広く知られているキャリアガイダンス手法の1つです。カードを分類したり、並べ替えたりといった作業をすることで、自分の職業興味や職業に対する価値観を知り、関心のある職業やこれまで知らなかった職業について理解を深めることができる手法です。

職業理解を促進するための企業HP・書籍例

- ・お金と経済の基礎 (全国銀行協会)
- ・あしたね(学校ネット)
- ・職業しらべナビ (ベネッセコーポレーション)
- ・職業図鑑 (ファウンデーション)
- ・パナソニックキッズスクール (パナソニック)
- ・日立の街(HITACHI)
- ・富士通キッズ(FUJITSU)
- ・「13歳のハローワーク」(幻冬舎)
- ・「中学生のための仕事発見ガイド」(実業之日本社)

ワークシート

- ・P.44「ライブイベント・マネーQ&A」
- ・P.44「さまざまな働き方考えるシート」

OHBYカードのイメージ



【出典】「労働政策研究・研修機構」HP

ワークシート

- ・P.45「職業発見シート」
- ・P.45「1日に出会った職業」